

日吉の森ニュース

第 140 号

発行
日吉の森に
学ぶ会

連絡先
長沖・福山

第177回自然観察会のご案内

10月の観察会から3週間ほどしか経過していないのですが、日程の都合で今週末が11月の観察会の日となります。観察できるものが10月と似ているかも知れませんが、新たに観察できる物もあると思います。早速、見どころをご紹介します。

ようやく校舎周辺のイチヨウやイロハモミジが色付き始めましたが、まだ緑が目立ちます。日吉の森で紅葉が見頃を迎えるのは、12月に入ってからです。紅葉狩りは次回の観察会まで取っておくことにしましょう。

その代わり、今の季節は木の実や果実を観察するのに適しています。サルトリイバラ、

第百七十七回自然観察会

十二月十七日 午後二時

日吉記念館前集合



雨天中止です。微妙なときは福山の携帯090-7215-4484にお電話を。

ヒヨドリジョウゴ、サネカヅラなどの実が熟して色付いている頃です。これから花をさせる植物は限られています。シロダモやヤツデなどはこれから花期を迎えます。秋の変化は春のそれと比べると、穏やかです。10月に見つけた生き物に今回も出会えるかも知れません。先月のダイジェストに載っている生き物をご覧になりたい方は、今週末の観察会に是非お出かけ下さい。



ヒヨドリジョウゴの実

日吉自然観察会

今後の開催予定

第177回	11月17日
第178回	12月15日
第179回	1月26日

日程は、事務局の都合により変更される場合があります。その際にはニュースなどでお知らせいたします。

観察会ダイジェスト

10月27日に開催された第176回自然観察会のダイジェストをお届けします。記録は福山が担当しました。

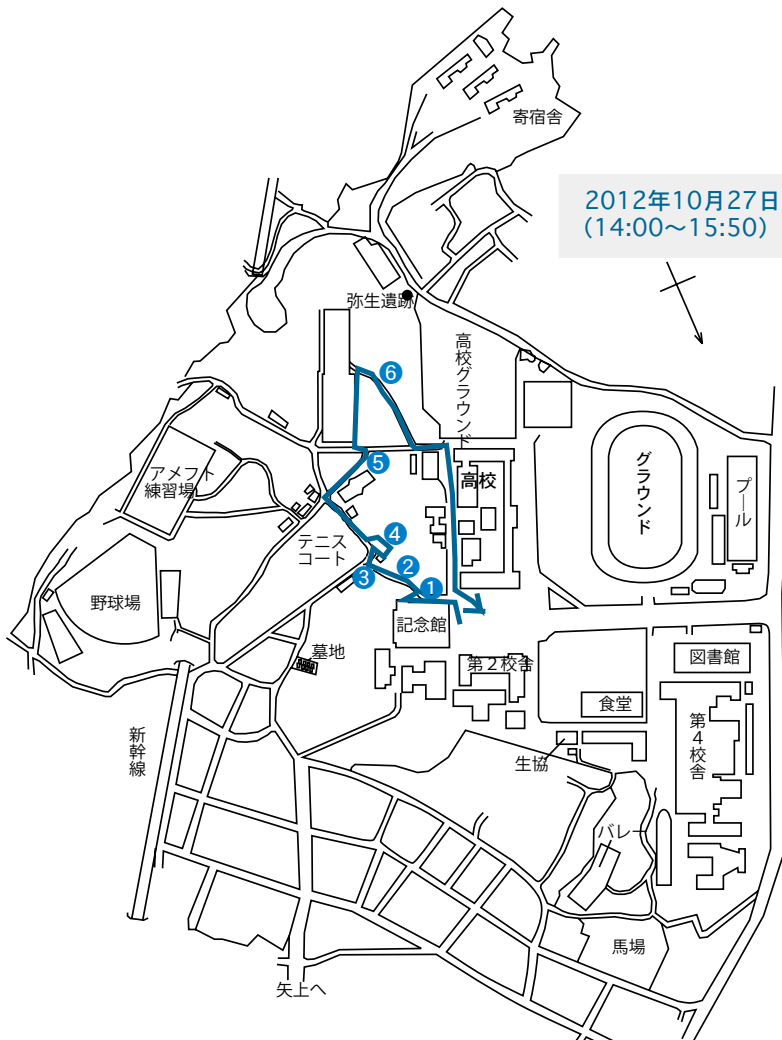
観察会の日は晴れることが多いのですが、今日も絶好の散策日和です。定刻を5分ほど過ぎたところで、記念館玄関を出発します。

①最初に記念館裏のテラスへ向かいます。途中、壁際に生えるヒメツルソバに目が留まりました。ピンク色の花が付いています。この植物はヒマラヤ原産の園芸種ですが、各地で野生化しているようです。日吉でも何力所かで確認されていますが、繁殖力がそれほど旺盛ではないようで、トキワツクサのように広がりすぎて

ヒメツルソバ



毎月ここを通るのですが、知らない間に徐々に増え、今日は花が付いたので増えたのがはっきりと分かるようになったのでしよう。今は一カ所で広がっているだけです、別の株が周辺に増え始める前に抜いてしまった方が良くも



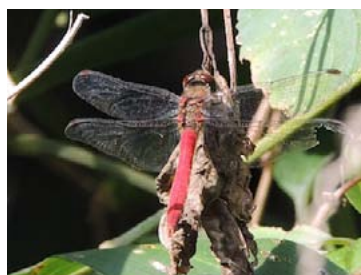
れません。記念館周辺では時々外来植物が見つかります。人通りも多く、外部から持ち込まれる機会が多いでしょう。

②記念館テラスでまむし谷を俯瞰した後、国見坂を下っていきます。左手の斜面は草が短く刈られ、見通しが良くなっていました。所々にススキの株だけが残されているのは、作業

された方の配慮なのでしょう。そういえば、今日、10月27日は満月です。暦では十三夜と呼び、9月の十五夜と並んでお月見の日として知られています。今夜は天気良そうですから、ここに来ればススキ越しの満月が楽しめるかも知れません。



ススキ アキアカネ



越せるのは、オツネントンボ類だけだと言われています。それ以外のトンボは12月頃にはいなくなってしまう。このアキアカネに残されている時間も多くはないでしょう。

さらに国見坂を降りていきます。階段にはコナラやエゴノキなどの落ち葉が目立つようになりまし

た。坂の左右のムラサキシキブの実も赤紺色に染まっています。秋が深まった証拠をそこかしこで確認できます。



ムラサキシキブの実

一谷から移動しようとしたとき、草むらに動くへびを見つけた。捕まえて持ち上げると、ヒバカリでした。アオダイショウと比べるとずいぶん小さいですが、この大きさで成体です。尾が細くなっているのが、雄のよう

③合気道部の部室前にやって来ました。毎年秋になると、この辺りの藪でヤマイモのむかごを探します。いつもビー玉くらいの大きなむかごを見つけたのですが、今年は不作のようです。なかなか見つかりません。その代わり、枯れたヤマイモの蔓に留まるアキアカネを見つけた。食欲は満たせませんが、目の保養には十分です。ただ、良く見ると、羽

ヒバカリ



の光沢は薄く、右の下羽の先端も破れています。動き出す素振りもなく、どこことなく疲れ切った休んでいるようにも見えます。日本には二百種ほどのトンボがいま

エビヅルの実 (上)、ノブドウの実 (下)



ヒバカリという名前の由来は、咬まれたらその日ばかり(で死んでしまう)という伝承からだと言われている。しかし、実際には温和な性格で、触っても咬まれることはほとんどありません。仮に咬まれたとしても、毒は持っていないので、人間が死ぬことはありません。つまり、名前の由来は全くの誤解に基づくのです。しかし、なぜそんな誤解が生じたのかは分かっていないようです。

⑤一谷からテニスコートを沿って進み、空手部の部室を右折して、まむし谷の奥の方へ向かいます。高校階段の登り口で、クヌギに絡みついたエビヅルを見つけた。蔓には黒紺色の実がブドウの房のように下がっています。いかにも美味しそうなので、摘んで試食してみました。黒豆くらいの粒を口に入

ツルソバ



でした。しかし、過去の植物リストにツルソバの名前はありませんでした。冒頭に出てきたヒメツルソバに近いのですが、ツルソバは在来種で、神奈川県にも自生しています。持ち込まれたとは考えにくいので、ここに生えているのを見落としていたのでしょう。

この後、いちご道から高校階段に入って、第一校舎の南側を通って記念館に戻りました。距離は短かったですが、発見の多い観察会となりました。

ニュース記事の訂正

前回(一三九号)ニュースの記事に誤りがありました。次のように訂正して、お詫びいたします。

裏面 最初の写真の説明
誤 オナガシジミ 正 ツバメシジミ

裏面 最後の写真の説明
誤 ビロードハバチ 正 ビロードハマキ

なお、イチヨウ並木の銀杏マップに説明がついていませんでした。○がイチヨウの木を示し、赤色が♀の木、青色が♂の木です。

に生えているのに出会ったのは初めてです。実が付いていなかったら、区別できなかったかも知れません。なお、エビヅルとノブドウの違いについては、前々回(二三八号)のニュースに掲載されています。

まむし谷体育館の脇を通って、谷頭まで来ました。足元にはクヌギのドングリが落ちています。帽子部分はたくさんありますが、肝心のドングリは数えるほどしかありません。アカネズミが冬に備えて巣穴に運んでしまったのでしょうか。そうだと良いのですが、もう何年もネズミを見かけていないのは気がかりです。

⑥谷頭からいちご道を通って帰る途中で、白い花を咲かせた見慣れない植物を見つけた。ミゾソバに似ていますが、葉の形が違います。その場では分からなかったのですが、研究室に帰って確認したところ、ツルソバ